

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 3 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19H01322

研究課題名（和文）植民地期東南アジアにおける気候変動と社会変容 人文歴史気象学の創成

研究課題名（英文）Climate change and social transformation in colonial Southeast Asia

研究代表者

太田 淳（Ota, Atsushi）

慶應義塾大学・経済学部（三田）・教授

研究者番号：50634375

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,200,000円

研究成果の概要（和文）：1860年代-1920年代におけるジャワの稲作、バタヴィアの洪水、エーヤーワディー川流域の稲作、ルソン島の各種農業における異常気象の影響を分析した。その結果、異常な降水によってジャワ、エーヤーワディー側流域、ルソン島では大規模な不作が生じ、バタヴィアの洪水は大規模化して農業地域にまで及んだことを明らかにした。

また、アチェ戦争に従軍したオランダ海軍の船舶が、航海日誌に気象記録を残していることを確かめた。このデジタル化とデータベース化を進めるとともに、人文歴史気象学というコンセプトの理論的位置づけについて検討を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、1860年代-1920年代の東南アジア各地において、異常気象が不作や洪水、疫病などをもたらし、農村・都市社会に大きな影響を与えていたこと、およびそのプロセスを明らかにした。植民地期アジアの歴史気候資料は現在公開・デジタル化されて利用が進みつつあるが、本研究はそれらの資料の分析に基づいて異常な降水パターンが農村や都市社会に与えた影響を明らかにした最初期の研究成果の一つと言える。ここから得られた知見は、気候の温暖化と極端化が進みつつある現代の東南アジアや日本において、社会がどのように環境に適応し共生していくかについて重要な視座を与えるものとなる。

研究成果の概要（英文）：We examined the impacts of abnormal weather on rice cultivation in Java, floods in Batavia, rice cultivation in Irrawaddy Valley, and various types of agriculture in Luzon Island. As a result, it is confirmed that extraordinary rainfall brought crop failure in Java, Irrawaddy Valley, and Luzon and expanded the floods in Batavia into the remote agricultural areas.

We also confirmed that Dutch Navy ships participating in the Aceh War left meteorological records in their logbooks. Having made a digitized database from these logbooks, we also examined the concept of a "humanistic approach to historical climatology."

研究分野：東南アジア史

キーワード：植民地期東南アジア 気候 降水 洪水 農業

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年の気象学者は世界各地の歴史的気象統計を発掘して古気候を復元しつつあり、特に洪水やエルニーニョ等の大規模現象を明らかにしてきた。しかし、より頻発する多雨や寒冷期などの中程度の異常気象や中長期的な気候変動とその影響はようやく研究が進みつつある段階である。また過去の人間社会が異常気象や気候変動にどのように取り組んでいたについても、まだ研究が始められたばかりであり、十分明らかに出来ているとは言えない。

2. 研究の目的

本研究は、植民地期東南アジアにおいてどのような異常気象や気候変動が起き、人間社会がそれにどう対処してきたかを歴史的に明らかにすることを目的とする。中程度以下の異常気象や気候変動も人間の生活に非常に大きな影響を与えることは現在の状況から明白であり、それらが過去にも頻発していたことは歴史気象学が明らかにしつつある。そこで本研究では歴史学者が、歴史気象が人間社会に与えた影響の解明に気象学者と協力しつつ率先して取り組み、(1)人間社会が過去にどのような異常気象や気候変動を経験したのか、(2)人間社会はそれにどのように対処してきたのか、そして(3)その結果として農業開発や都市形成の歴史をどのように再構築できるのかを明らかにすることを目的とする。さらに本研究は、異常気象や気候変動を気象自体のメカニズムとして説明するのではなく、それに人間社会がどのように対応し対策を取ってきたかを検討する人文歴史気象学の創造を試み、そうした歴史的経験をどのように今後の社会に活かせるのかという問いに対しても歴史学と気象学の融合によって回答を試みる。

3. 研究の方法

研究分担者の財城は、19世紀後半から20世紀前半におけるオランダ領東インドで観測された降水量の観測記録(Regenwaarnemingen in Nederlandsch-Indie (Rainfall observation in Dutch-Indies))のうち、観測地点(緯度経度や標高など)の同定やデータの品質管理が完了している1901~1916年のMedan, Palembang, Batavia (Jakarta), Banjarmasin, Makassar, Ambonの6地点について、季節変動および年々変動の特徴について分析を行った。またジャワ島において米の不作が生じた1919-1921年の気圧と気温について、長期再解析データを使用して大気循環の分析を行い、特異な気候をもたらした要因の考察を行った。

研究分担者の赤坂は、フィリピンで植民地期に生じた異常気象発生年を特定するために、アテネオ・デ・マニラ大学図書館で気候・気象関連の資料調査を行い、20世紀前半以前の台風や水害、干ばつに関する資料を入手した。これと、マニラの日降水量データをもとに調査対象とする異常気象発生年を絞り込んだ。また、農業に関する資料として、1902~1907年のフィリピン気象月報から作況報告を収集し、異常気象が農業に与えた影響を分析した。分析には、フィリピン気象月報から研究分担者(赤坂)がこれまでに電子化してきた気象データも使用した。

研究分担者の長田は植民地期ビルマの地点別降雨量データと県別の米収穫量を分析した。

代表者の太田は財城の利用した資料に加えて、オランダ王立気象研究所からも別期間の未公開資料の提供を受け、ジャワ各地の月別降水量を分析した。また、植民地政府が作成した各種の農業統計資料や農村調査資料、疫病に関する資料を調査して不作や疫病の発生と降雨パターンとの関連を検討した。

研究協力者の笹本は、蘭領東インドのバタヴィア(現ジャカルタ)で発行された日刊紙 *De Java Bode* および *Bataviaasch Nieuwsblad* の新聞記事データベースに基づき、洪水に関する新聞記事を分析し、洪水の発生日、浸水の状況、浸水期間、洪水の要因、被害状況等を整理した。また、20世紀前半の縮尺5万分の1等地形図を収集し、バタヴィア都市域の土地被覆データに変換し、洪水発生状況と土地被覆との関係を検討した。また、公共事業局の年次報告書、エンジニアおよび技師が専門雑誌に投稿した報告書等を収集し解読して、当植民地公共事業局のエンジニアが、洪水の発生要因、洪水対策についてどのように検討し、実際にどのような事業を実施したかを明らかにした。加えて、農業地帯での洪水発生状況を把握するため、1900年から1910年までのスマラン理事州における雨季(12月から翌年4月まで)の新聞記事を収集し、内容を分析した。

研究分担者の塚原はオランダ海軍の航海日誌を検討し、植民地期東南アジアの気候を記録した資料として利用可能であることを確認した。アチェ戦争に従軍した船舶が、戦時の気象記録を残していることを確かめ、この記録のデジタル化とデータベース化に取り組んだ。

4. 研究成果

財城は上記6地点について、北西アジアモンスーンの影響を強く受け明瞭な乾季と雨季があるパターン、逆に雨季・乾季が不明瞭なパターン、南東モンスーンが山岳傾斜によって雨季と乾季が明瞭になるパターンがあることを明らかにした。さらに、年降水量の年々変動は地点によって大きく異なるが、長期的な増加・減少傾向について有意な結果が得られなかった。対象とし

た3年のうち、特に1919年の雨季は少雨・低温、乾季は多雨・低温傾向が顕著であることを明らかにした。しかしながら、気圧場と気温偏差の関係は必ずしも一致しておらず、今後、モンスーン（風向風速）などを考慮した解析が必要と思われる。

赤坂は19世紀後半～20世紀前半のマニラにおける年降水量と季節降水量（5～10月、11～4月）を基準に、多雨年と少雨年をそれぞれ2～5年ずつ抽出した。中でも、少雨と不作が見られた1903年と1938年に着目して、降水量の地域性や季節性を詳細に分析した。1938年に関しては、マニラの夏季モンスーン期（7～8）降水量が平均の5割ほどしかなかったことや、同様の傾向がマニラを含むルソン島西部で広く表れていたことを確かめたが、干ばつにより米の価格が上昇したことが一部資料に記載されていたものの、農業資料の不足により、干ばつと農業被害との関連を具体的に分析することはできなかった。1903年は、植民地期において特に著しい少雨年であった。マニラでは乾季（平均は2～4月）が6月頃まで続き、雨季入りが1ヶ月ほど遅れ、雨季（平均では5～10月）の降水量も平均の5割ほどであった。雨季入りの遅れにより、フィリピン北西部では4～6月に40近い高温が広く観測されていたことも分かった。また、1903年の3～6月の少雨と高温に対応してルソン島北西部では、播種の遅れや見送り、農作物収量の減少に関する報告が増加していたことを確かめた。一方、農業被害の要因には干ばつに加え、イナゴの大量発生、家畜の病気やコレラ等の流行による労働力不足もあることが明らかとなった。干ばつの要因としては、1902年夏季～1903年初めに発生していたエルニーニョ現象の影響が示唆されるが、要因の特定には広域の大気環境場や海面水温を含めた更なる分析が必要である。

長田はビルマ平地部において、雨季中期の多雨と雨季晩期の少雨が重なる降雨パターンの際に凶作になりやすいことを見出した。雨季中期の多雨はエーヤーワディー川の洪水を大規模化させ、雨季晩期の少雨は洪水が引いたあとに再移植したイネの発育不良に結びついた可能性を指摘した。

太田は1910-30年代のバタヴィアにおいてマラリアが発生する際に特有の降水パターンがあったことと、当時のマラリア防遏政策に気候に関する知識と都市工学を組み合わせる発想があったことを明らかにした。1917年のバタヴィアにおけるマラリア流行の際に最大の被害を出したマンガブサル地区では、洪水で水たまりが出来たあとに雨がやみ気温が上がったことでボウフラが発生したことが流行の原因であったと結論づけた。また、ジャワ農村調査資料において1920年の乾季に異常な降雨が見られ、翌年のイネ病害の発生につながったと報告されていることを見出し、実際に各地の降雨データと参照させて、不作発生地域と異常降雨が起きた地域が一致することを確認した。当時は降雨パターンと不作の関係が分かっていなかったが、1950年代以降のイネ病虫害に関する研究を分析して、1921年にジャワでイネの不作をもたらした要因は、特定の線虫がもたらす病害であったことを明らかにした。

笹本は新聞記事の分析に基づき1853年から1916年の計123日分の浸水情報を明らかにし、洪水の発生状況、被害、経年変化、治水事業との関係、都市部の衛生問題についてより正確な分析を可能にした。主に明らかになったことは、次のとおりである。1870年から1885年にかけては頻りに洪水が発生し、浸水が市街地とカンブンの両方を含む広範囲に及ぶ傾向があった。1872年、1876年、1885年には歴史的に多量の降雨があり大規模で期間の長い洪水が発生した。

1872年に計画され1881年までに完成した洪水対策事業は浸水範囲を狭める効果があった可能性がある。同対策事業の1つであるグヌンサハリ放水路の可動堰が洪水時に開放されるようになった1886年以降に市街地の浸水は減少したもののカンブンでの浸水は継続した。1879年から1900年までのチリウン川沿い6地点の日雨量と洪水発生を考察したところ、バタヴィアで殆ど雨が降っていなくても上中流部の降雨によりバタヴィアで外水氾濫が発生した。上中流部の降雨によりバタヴィアの河川・水路の水位が高くなり、そこにバタヴィアでの降雨により内水氾濫が発生したとみられる。1899年2月には外水氾濫と内水氾濫が複合して発生した状況が明らかになった。また、スマラン理事州における雨季の洪水については、比較的大きな河川流域の氾濫原地帯にある農業地域で洪水が頻発していた状況を明らかにした。

塚原は入手した資料から具体的データのあるものを選定し、デジタル化を進めた。これらの成果は、東南アジア海域での気象資料を含むものであり、現在データベース化が済んだものをJCDPでのウェブ公開に向けて検証・整理を進めている。また文理融合コンセプトである、人文歴史気象学について理論的な位置付けについては、方法論として科学史・科学哲学の面から、特にフンボルト主義との関係（特にインストルメンタリゼーション、自然の機器による観測と数量化）についての検討を進めた。成果としては、『思想』への論文として発表している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計33件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Masumi ZAIKI, Theo BRANDSMA	4. 巻 58
2. 論文標題 Data Rescue of Rainfall Records from the Dutch East Indies	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University	6. 最初と最後の頁 79-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akasaka, I.	4. 巻 58
2. 論文標題 Diurnal cycle of surface wind and its seasonality at Manila, Philippines, from 1890 to 1900	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚原 東吾	4. 巻 1183
2. 論文標題 気候変動論におけるデジタル・フンボルト主義とデータレスキュー：地球システム科学における人文学の役割--環境人文学	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 59-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚原 東吾, 瀬戸口 明久, 田中 祐理子, 小川 眞里子, 美馬 達哉, 藤原 辰史	4. 巻 301
2. 論文標題 シンポジウム コロナをどう考えるか? 科学史からの直球勝負	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 科学史研究. [第 期] = Journal of history of science, Japan. [Series]	6. 最初と最後の頁 27-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚原 東吾, 慎 蒼健, シェル エリクソン, ヒロミ ミズノ, 西山 崇, キム テホ, 藤原 辰史, 山根 伸洋	4. 巻 301
2. 論文標題 シンポジウム アーロン・モアの見たもの、遺したもの：追悼シンポジウム	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 科学史研究. [第 期] = Journal of history of science, Japan. [Series]	6. 最初と最後の頁 34-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上 岳彦, 財城 真寿美, 長谷川 直子, 平野 淳平, 塚原 東吾, パートン ブルース	4. 巻 2022s
2. 論文標題 日記天候記録と気象データによる過去320年間の気温変動復元	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本地理学会発表要旨集	6. 最初と最後の頁 35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保田 尚之, 松本 淳, 赤坂 郁美, 塚原 東吾, 太田 淳	4. 巻 2022a
2. 論文標題 航海日誌の気象データを用いた南シナ海夏季モンスーンオンセットの長期変動	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本地理学会発表要旨集	6. 最初と最後の頁 106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保田 尚之, 塚原 東吾, 平野 淳平, 財城 真寿美, 松本 淳, De Jong Alice	4. 巻 2022s
2. 論文標題 オランダ軍艦の航海日誌に基づいて推定した安政江戸台風の大きさ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本地理学会発表要旨集	6. 最初と最後の頁 152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笹本浩子	4. 巻 42
2. 論文標題 蘭領東インドのバタヴィアにおける19世紀後半の雨季の洪水履歴	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 土木史研究講演集	6. 最初と最後の頁 133 - 141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hirano Junpei, Mikami Takehiko, Zaiki Masumi	4. 巻 18
2. 論文標題 Analysis of early Japanese meteorological data and historical weather documents to reconstruct the winter climate between the 1840s and the early 1850s	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Climate of the Past	6. 最初と最後の頁 327 ~ 339
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5194/cp-18-327-2022	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kubota Hisayuki, Matsumoto Jun, Zaiki Masumi, Tsukahara Togo, Mikami Takehiko, Allan Rob, Wilkinson Clive, Wilkinson Sally, Wood Kevin, Mollan Mark	4. 巻 164
2. 論文標題 Tropical cyclones over the western north Pacific since the mid-nineteenth century	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Climatic Change	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10584-021-02984-7	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚原 東吾	4. 巻 49(11)
2. 論文標題 『復活の日』とSFの終わりの始まり : 科学史から見た小松左京	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 265-276
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚原東吾	4. 巻 1(4)
2. 論文標題 科学史から見た『人新世』：フンボルト主義というステップ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 たぐい	6. 最初と最後の頁 65-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笹本浩子	4. 巻 41
2. 論文標題 1870年代の蘭領東インドの植民地都市バタヴィアにおける洪水防御計画	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 土木史研究講演集	6. 最初と最後の頁 77 - 84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野坂海斗・塚原東吾	4. 巻 19
2. 論文標題 人新世とマルクス：斎藤幸平は次世代を引き込めるか？	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 神戸STS叢書シリーズ	6. 最初と最後の頁 1-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 塚原東吾、松嶋登他	4. 巻 18
2. 論文標題 神戸のSTS：スプリング8と低線量被曝	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 神戸STS叢書シリーズ	6. 最初と最後の頁 109-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉岡克己、塚原東吾 [ほか]	4. 巻 17
2. 論文標題 姫路科学館収蔵旧制姫路高等学校コレクション物理実験機器資料	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 神戸STS叢書シリーズ	6. 最初と最後の頁 201-206
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hisayuki Kubota, Jun Matsumoto, Masumi Zaiki, Togo Tsukahara, Takehiko Mikami, Rob Allan, Clive Wilkinson, Sally Wilkinson, Kevin Wood & Mark Mollan	4. 巻 164
2. 論文標題 Tropical cyclones over the western north Pacific since the mid-nineteenth century	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Climatic Change	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10584-021-02984-7	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Togo Tsukahara, Jianjun Mei	4. 巻 14 (2)
2. 論文標題 Putting Joseph Needham in the East Asian Context: Commentaries on Papers about the Reception of Needham's Works in Korea and Taiwan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 EAST ASIAN SCIENCE TECHNOLOGY AND SOCIETY-AN INTERNATIONAL JOURNAL	6. 最初と最後の頁 403-410
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚原東吾	4. 巻 5月号
2. 論文標題 コロナから発される問い	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 145-155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚原 東吾	4. 巻 54
2. 論文標題 気候正義と科学史：科学論の観点から見て「人新世」が提起していること	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地質学史懇話会会報	6. 最初と最後の頁 72-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保田 尚之, Mollan Mark, 松本 淳, 財城 真寿美, 塚原 東吾, 三上 岳彦, Allan Rob, Wilkinson Clive, Wilkinson Sally, Wood Kevin	4. 巻 3
2. 論文標題 「過去の災害をどう探るか? : 古気候記録の収集・分析と市民科学の試み (特集 マイノリティ・アーカイブズの構築・研究・発信)」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『立命館生存学研究』	6. 最初と最後の頁 17-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34382/00012854	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 塚原東吾	4. 巻 74(8)
2. 論文標題 「オリンピックとカジノ万博は現代のパベルの塔か? : 科学技術とプロテスタンティズムの倫理 (特集 現代のパベルの塔 : 反オリンピック・反万博)」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『福音と世界』	6. 最初と最後の頁 30-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤坂郁美	4. 巻 51
2. 論文標題 1890年代のマニラにおける風と降水量の季節進行	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 専修自然科学紀要	6. 最初と最後の頁 21-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 太田淳	4. 巻 89-4
2. 論文標題 海域東南アジアの「18-19世紀転換期」と近代への接続	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 社会経済史学	6. 最初と最後の頁 391-406
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ota Atsushi	4. 巻 12-1
2. 論文標題 "Introduction," SPECIAL FOCUS Environment and Public Welfare in the Creation and Development of Economic Infrastructure in Southeast Asia, c. 1800-1930: Currency Supply, Forest Control, and Rail Transport	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Southeast Asian Studies	6. 最初と最後の頁 3-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20495/seas.12.1_3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ishii, M., Kamahori, H., Kubota, H., Zaiki, M. 他9名	4. 巻 102
2. 論文標題 Global Historical Reanalysis with a 60-km AGCM and Surface Pressure Observations: OCADA	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Journal of the Meteorological Society of Japan. Ser. II	6. 最初と最後の頁 209-240
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2151/jmsj.2024-010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長田紀之	4. 巻 84 Mar/Apr
2. 論文標題 ミャンマーの古くて新しい内戦 その多元性と持続性	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 110-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤坂郁美	4. 巻 114
2. 論文標題 フィリピン・ルソン島西部における1903年の異常気象の特徴と農作物への影響	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 専修人文論集	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KUBOTA Hisayuki , TSUKAHARA Togo , HIRANO Junpei , MATSUMOTO Jun , ZAiki Masumi , MIKAMI Takehiko , ALLAN Rob , WILKINSON Clive , WILKINSON Sally , DE JONG Alice	4. 巻 18-2
2. 論文標題 外国船の航海日誌に記録された気象測器データによる江戸時代末期に日本に接近した台風の解析	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 The Association of Japanese Geographers	6. 最初と最後の頁 412-422
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4157/ejgeo.18.412	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 村上 陽一郎, 塚原 東吾	4. 巻 1194
2. 論文標題 科学史・科学哲学にクーンがもたらしたもの - トマス・クーン	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 7-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚原 東吾	4. 巻 1194
2. 論文標題 ポスト・クーン主義と『科学革命の構造』: 現代的な読み直しのために	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 48-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 隠岐 さや香, 塚原 東吾	4. 巻 51(7)
2. 論文標題 無知の力と新しい啓蒙	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 8-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計69件 (うち招待講演 6件 / うち国際学会 43件)

1. 発表者名 Masumi ZAIKI
2. 発表標題 Data rescue of instrumental meteorological records in Japan since the 19th century
3. 学会等名 The International Workshop on Climate, Water, Land, and Life in Monsoon Asia (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 財城真寿美
2. 発表標題 江戸の気候変動
3. 学会等名 成蹊大学アジア太平洋研究センターオンライン講演会「東京の気候変動～身近な吉祥寺の気候から江戸の気候まで～」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鴨川仁, 財城真寿美, 林修吾, 松本淳
2. 発表標題 日記記録と気象庁観測に基づく東京と金沢における雷日数の経年的増加について
3. 学会等名 日本大気電気学会第101回研究発表会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Akasaka, I.
2. 発表標題 Seasonal changes in rainfall and surface wind at Manila for the late 19th century
3. 学会等名 The international workshop on climate, water, land, and life in Monsoon Asia (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 赤坂郁美・財城真寿美・久保田尚之・松本 淳
2. 発表標題 2022. 19世紀後半～20世紀前半のマニラにおける降水量と卓越風系の季節進行
3. 学会等名 日本気象学会2022年度秋季大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 長田紀之
2. 発表標題 「趣旨説明」(大会シンポジウム アンソニー・リード著『世界史のなかの東南アジア』日本語版刊行記念シンポジウム「全体史を通じた総合と対話の試み 新しい通史と翻訳の問題をめぐって」)
3. 学会等名 東南アジア学会第104回研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 長田紀之
2. 発表標題 「趣旨説明」
3. 学会等名 HMC第84回オープンセミナー「東南アジアからノで世界を視る：人文系地域研究のアクチュアリティ」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Atsushi Ota
2. 発表標題 Rainfall and Malaria in Batavia, 1921-38
3. 学会等名 The International Workshop on Climate, Water, Land, and Life in Monsoon Asia
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Atsushi Ota
2. 発表標題 Rainfall and Malaria in Batavia, 1911-38
3. 学会等名 The 2023 Association for Asian Studies (AAS) Annual Meeting
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 笹本浩子
2. 発表標題 蘭領東インドのバタヴィアにおける19世紀後半の雨季の洪水履歴
3. 学会等名 土木学会第42回土木史研究発表会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太田淳
2. 発表標題 ジャワにおける1920-21年の米危機 異常気象と糖業の影響
3. 学会等名 社会経済史学会第91回全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 財城真寿美
2. 発表標題 世界・日本の気候変動に関する自然科学的知見
3. 学会等名 成蹊大学アジア太平洋研究センター・朝日新聞共同企画オンライン講演会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 財城真寿美
2. 発表標題 気候変動で読み解く日本史
3. 学会等名 全国高校生探求SDGsサミット
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Masumi ZAIKI
2. 発表標題 Characteristics of rainfall variability and the abnormal condition in the dry year in Java based on the 1901-1916 Indonesian rainfall data
3. 学会等名 The 11th European Association for Southeast Asian Studies Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Junpei HIRANO, Takehiko MIKAMI, Masumi ZAIKI
2. 発表標題 Combined Analysis of Early Instrumental Data and Historical Daily Weather Documents for Winter Climate Reconstruction in Japan
3. 学会等名 The Sixth Biennial Conference of East Asian Environmental History (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Akasaka, I.
2. 発表標題 Climatology and interannual variability in rainfall in the Philippines from the late 19th century to the early 20th century
3. 学会等名 European Association for Southeast Asian Studies (EuroSEAS) 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Akasaka, I.
2. 発表標題 Data rescue of Philippine meteorological data
3. 学会等名 ACRE 2021 Virtual Workshop (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Akasaka, I., Zaiki, M., Kubota, H. and Matsumoto, J.
2. 発表標題 Seasonal changes in rainfall and surface wind at Manila for the late 19th century
3. 学会等名 34th International Geographical Union (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Togo Tsukahara
2. 発表標題 Science, Technology and Society (STS) in East and Southeast Asia
3. 学会等名 東南アジア学会第104回研究大会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Togo Tsukahara
2. 発表標題 Climate on Naval Battle: Dutch logbook as historical material
3. 学会等名 SEAS2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yoshinori Taniguchi, Togo Tsukahara, Hirohisa Suzuki
2. 発表標題 Historical changes in a local stream and fish assemblages revealed through folktales and interviews with local villagers in the Hida region, central Japan
3. 学会等名 The Sixth Biennial Conference of East Asian Environmental History (EAEH 2021) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松本 淳, 三上岳彦, 久保田尚之, 赤坂郁美, 財城真寿美, 寺尾 徹, 木口雅司, 釜堀弘隆, 遠藤伸彦, 福島あずさ, 山本晴彦, 小林 茂, 塚原東吾, 太田 淳, 平野淳平, 市野美夏, 村治能孝
2. 発表標題 モンスーンアジアの気象データレスキュー: ACRE-Japanでのアジアモンスーン域におけるデータレスキュー
3. 学会等名 日本気象学会第9回気象学史研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 笹本浩子
2. 発表標題 1870年代の蘭領東インドの植民地都市バタヴィアにおける洪水防御計画
3. 学会等名 土木学会第41回土木史研究発表会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiroko Sasamoto, Koshi Yoshida
2. 発表標題 An Attempt to Describe Flooding in Batavia in the Late 19th Century and the Early 20th Century under the Dutch Colonial Rule
3. 学会等名 The Sixth Biennial Conference of East Asian Environmental History (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiroko Sasamoto
2. 発表標題 Historical Urban Land Use/Cover Digitization for GIS Analyses based on Hydrological Consideration: A Case in Batavia/Jakarta
3. 学会等名 ANGIS (Asian Network for GIS-based Historical Studies) Tokyo 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Atsushi Ota
2. 発表標題 Lampung in the Eighteenth Century
3. 学会等名 International Conference and Cultural Event of Lampung 2021 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Atsushi Ota
2. 発表標題 Rainfall and Malaria in Jakarta in the 1910s
3. 学会等名 EuroSEAS 2021 Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Atsushi Ota
2. 発表標題 Rice Crisis in Colonial Java: A Preliminary Analysis of Climatic Influence on Agriculture in Tropical Asia
3. 学会等名 EAEH 2021 Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三上岳彦, 長谷川直子, 財城真寿美, 平野淳平, 塚原東吾, ブルース パートン
2. 発表標題 日記天候記録と気象データによる過去320年間の気温変動復元
3. 学会等名 日本地理学会2022年春季学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 久保田尚之, 塚原東吾, 平野淳平, 財城真寿美, 松本淳
2. 発表標題 オランダ軍艦の航海日誌に基づいて推定した安政江戸台風の大きさ
3. 学会等名 日本地理学会2022年春季学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 赤坂郁美・財城真寿美・久保田尚之・松本 淳
2. 発表標題 1868～1900年のマニラにおける卓越風と降水量の季節進行
3. 学会等名 日本地理学会春季学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Togo Tsukahara
2. 発表標題 Meteorological records from Dutch log-books, 1850s - 1860s: Japan's Opening-Nation period climate reconstruction by the Four Nations Fleet at the Bombardment of Shimonoseki.
3. 学会等名 ACRE China, Japan, S.E. Asia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Togo Tsukahara
2. 発表標題 Needham's Japan, Japan's Needham: Legacy of "Science and Civilization in China". 李約瑟『中国科学技術史(中国的科学与文明)』和日本科学史
3. 学会等名 Beijing Forum (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Togo Tsukahara
2. 発表標題 Environmental Factors in Modernized Empire: Japan's Agricultural Meteorology in Early 20th Century, a controversy and its ecological context.
3. 学会等名 農業気象学史ワークショップ(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Togo Tsukahara and Alice de Jong
2. 発表標題 Analysis of Dutch Naval Logbooks
3. 学会等名 Netherlands-Japan Historical Climatology Workshop (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Togo Tsukahara, Alice de Jong and Atsushi Ota
2. 発表標題 Work-in-Progress on Analysis of Dutch Naval Logbooks, with special reference to Shimonoseki War.
3. 学会等名 歴史の中の気候気候の中の歴史 : 国際シンポジウム (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Togo TSUKAHARA
2. 発表標題 Environmental Factors in Modernized Empire: Japan's agricultural meteorology in early 20th century, a controversy and its ecological context.
3. 学会等名 15th ICHSEA 2019 (International Conference on the History of Science in East Asia) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Togo TSUKAHARA
2. 発表標題 "Polycentric East Asia": From the Perspectives of Traditional Historiography and "Science and Empires"
3. 学会等名 15th ICHSEA 2019 (International Conference on the History of Science in East Asia) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 塚原東吾
2. 発表標題 科学史・科学哲学、STS (科学技術社会論) の視点から見た『ソサエティ5.0』
3. 学会等名 「みんなのSDGs」シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Atsushi Ota
2. 発表標題 Historical Climatology in the Perspectives of Humanities: JSPS research project, 2019-2014
3. 学会等名 Netherlands-Japan Historical Climatology Workshop (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Atsushi Ota
2. 発表標題 Collaboration between Historical Climatology and History: JSPS research project, 2019-2024
3. 学会等名 歴史の中の気候気候の中の歴史 : 国際シンポジウム (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Atsushi Ota
2. 発表標題 Climatological factors in the 1920-21 crop failure in Java
3. 学会等名 International Workshop "Climate and Urban/Rural Development in Colonial Southeast Asia" (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 赤坂郁美・財城真寿美・久保田尚之・松本 淳
2. 発表標題 1868～1900年のマニラにおける卓越風と降水量の季節進行
3. 学会等名 日本地理学会春季学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akasaka, I.
2. 発表標題 Seasonal changes in surface wind and rainfall at Manila for the late 19th century. International Workshop on Climate in History in Asia.
3. 学会等名 歴史の中の気候気候の中の歴史：国際シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akasaka, I.
2. 発表標題 Climatology and changes in rainfall characteristics in the Philippines from the late 19th century to the early 20th century. International Workshop on Climate and Urban/Rural Development in Colonial Southeast Asia.
3. 学会等名 International Workshop “Climate and Urban/Rural Development in Colonial Southeast Asia”（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 赤坂郁美
2. 発表標題 フィリピン・ルソン島の気候風土と其の変化.
3. 学会等名 専修大学人文科学研究所定例研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 財城真寿美
2. 発表標題 江戸・東京の気候変動
3. 学会等名 第13回高等教育におけるESDフォーラム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hirano, J., Mikami, T., Zaiki, M., Konnen, G., Baede, F.
2. 発表標題 Reconstruction of typhoon tracks affected Kyushu, western Japan in 1828.
3. 学会等名 The 2019 Annual Meeting of the European Meteorological Society. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Zaiki, M.
2. 発表標題 Seasonal rainfall characteristics and monsoon variability based on the 1901-1916 Indonesian rainfall data.
3. 学会等名 International Workshop on Climate and Urban/Rural Development in Colonial Southeast Asia. (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Noriyuki Osada
2. 発表標題 Climate fluctuations and agriculture in colonial Burma: A preliminary consideration
3. 学会等名 International Workshop on Climate and Urban/Rural Development in Colonial Southeast Asia. (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiroko Sasamoto
2. 発表標題 "Floods and the Water Management in Batavia under the Dutch Rule"
3. 学会等名 歴史の中の気候気候の中の歴史 : 国際シンポジウム (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroko Sasamoto
2. 発表標題 “ Re-recognition of Urban Topography through Flooding in Batavia in the Second Half of the 19th Century ”
3. 学会等名 International Workshop on Climate and Urban/Rural Development in Colonial Southeast Asia. (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 太田淳
2. 発表標題 植民地期西ジャワ農民の環境対応：近代灌漑の導入と米不作をめぐるふるまい
3. 学会等名 歴史学会大会シンポジウム2023「近現代の人間社会と自然をめぐるふるまい」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Atsushi Ota
2. 発表標題 Rainfall, Irrigation, and Rice Cultivation in West Java in the 1900s
3. 学会等名 the International Conference of the History of Science in East Asia (ICHSEA) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Atsushi Ota
2. 発表標題 Economic History and the Chinese Century
3. 学会等名 JSSEAS & NIHU-MAPS Joint Conference: Southeast Asia as Critical Crossroads: Dialogues with Anthony Reid (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Atsushi Ota
2. 発表標題 Rainfall and Rice Cultivation in West Java in the 1900s
3. 学会等名 the Seventh Biennial Conference of East Asian Environmental History (EAEH) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Zaiki, M., MIKAMI, T.
2. 発表標題 19th century meteorological records in Japan and its scientific use
3. 学会等名 The 16th International Conference on the History of Science in East Asia (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 財城 真寿美
2. 発表標題 19世紀の日本における気象観測の記録とその気候変動研究での利用
3. 学会等名 奈良地理学会2023年度夏季例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 財城 真寿美
2. 発表標題 シーボルトによる気象観測
3. 学会等名 2023年度日本魚類学会年会シンポジウム「シーボルト魚類標本と江戸参府紀行」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 財城 真寿美
2. 発表標題 出島（長崎）における19世紀の気象観測記録
3. 学会等名 シーボルト来航200年記念、国際シンポジウム 「出島での気象観測とその歴史的意義：環境史・東西交流史の観点から」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Osada Noriyuki
2. 発表標題 " Southeast Asian Genius: How the Region Manages Its Diversity? "
3. 学会等名 JSSEAS & NIHU-MAPS Joint Conference "Southeast Asia as Critical Crossroads: Dialogues with Anthony Reid" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Akasaka, I., Zaiki, M., Kubota, H. and Matsumoto, J.
2. 発表標題 Seasonal changes in rainfall and surface wind at Manila for the late 19th century.
3. 学会等名 The 16th International Conference on the History of Science in East Asia (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 赤坂郁美, 久保田尚之, 松本 淳
2. 発表標題 フィリピン北西部における1903年の干ばつの気候学的特徴と農業への影響
3. 学会等名 2024年日本地理学会春季学術大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 塚原東吾, アリス・デ・ヨング
2. 発表標題 オランダ海軍の航海日誌研究の概要 オランダ海軍の航海日誌と気象データ：歴史気象学の新たなフェーズに向けて
3. 学会等名 Workshop "Towards a New Phase of Historical Climatology: Dutch Navy Logbooks and Climatological Information" (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 塚原東吾
2. 発表標題 東アジアの気象観測：南懐仁、蘭学、そして科学と帝国主義
3. 学会等名 第3回グローバルSTS会議(シンガポール(招待講演))(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 塚原東吾
2. 発表標題 歴史の中の気候変動：回顧と展望
3. 学会等名 北京論壇(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 塚原東吾
2. 発表標題 オランダ海軍航海日誌、デジタイズの進行状況報告
3. 学会等名 オランダ学術会議(KNAW)コラボレーションWS(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 塚原東吾
2. 発表標題 環境史の素材：気候再現のための素材としてのオランダ海軍の航海日誌
3. 学会等名 第16回国際東アジア科学史学会（フランクフルト）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 久保田， 塚原東吾， 平野， 松本， 財城， 三上、アラン， ウィルキンソン、デ・ヨング
2. 発表標題 19世紀アジアモンスーン地帯におけるデータレスキュー
3. 学会等名 第20回アジアオセアニア地球科学会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計38件

1. 著者名 財城真寿美	4. 発行年 2023年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 340
3. 書名 成蹊大学文学部学会編『歴史の蹊、史料の杜』	

1. 著者名 財城真寿美	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 842
3. 書名 「気候変動と適応」公益社団法人日本地理学会 編『地理学事典』	

1. 著者名 財城真寿美	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 842
3. 書名 「観測時代の気候変動」公益社団法人日本地理学会 編『地理学事典』	

1. 著者名 赤坂郁美	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 842
3. 書名 「大気大循環と気候」公益社団法人日本地理学会 編『地理学事典』	

1. 著者名 赤坂郁美	4. 発行年 2022年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 430
3. 書名 「南アジア・東南アジアにおける地域的な気候特性・局地風」山川 修治、江口 卓、高橋 日出男、常盤 勝美、平井 史生、松本 淳、山口 隆子、山下 脩二、渡来 靖編『図説 世界の気候事典』	

1. 著者名 長田紀之	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 318
3. 書名 「環ベンガル湾世界の植民地化 ミャンマー／ビルマに焦点を当てて」吉澤誠一郎、林佳世子(責任編集)『岩波講座 世界歴史 第17巻 近代アジアの動態 19世紀』	

1. 著者名 太田 淳	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 404
3. 書名 「商業の時代」久志本裕子、野中葉編『東南アジアのイスラームを知るための64章』	

1. 著者名 太田 淳	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 324
3. 書名 「グローバル貿易と東南アジア海域世界の「海賊」」弘末雅士・吉澤誠一郎編『東アジアと東南アジアの近世 15～18世紀』	

1. 著者名 笹本浩子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 392
3. 書名 「マラリア撲滅」を目指してー蘭印植民地期の工学の進展とバタヴィアの水環境改善ー 籠谷直人、川村朋貴編『近代東南アジア社会経済の国際的契機』	

1. 著者名 アンソニー・リード、太田 淳、長田 紀之、青山 和佳、今村 真央、蓮田 隆志	4. 発行年 2021年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 398
3. 書名 世界史のなかの東南アジア [上]	

1. 著者名 アンソニー・リード、太田 淳、長田 紀之、青山 和佳、今村 真央、蓮田 隆志	4. 発行年 2021年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 386
3. 書名 世界史のなかの東南アジア [下]	

1. 著者名 井上雅俊, 塚原東吾	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 410
3. 書名 「ウラニウム：現代史における原子力性」桃木 至朗 責任編集 中島 秀人 編集協力 『ものがつなく世界史』	

1. 著者名 塚原東吾	4. 発行年 2021年
2. 出版社 思文閣	5. 総ページ数 516
3. 書名 「気象観測機器」青木歳幸, 海原亮, 沓澤宣賢, 藤賢一, イサベル・田中・ファンダーレン, 松方冬子編 『洋学史研究事典』	

1. 著者名 塚原東吾	4. 発行年 2021年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 758
3. 書名 「実験:あるがままでは、ない, 自然の見方, 気象学史, 自然科学から数量化とネットワークへ, 江戸時代の化学, 物質観の変遷から軍事科学へ」日本科学史学会 編 『科学史事典』	

1. 著者名 塚原東吾、岡本江里菜、黒澤里吏	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ニュートンプレス	5. 総ページ数 224
3. 書名 グレートブレイクスルー 科学技術大事典	

1. 著者名 中屋敷優、山名優衣、高田桃香、塚原東吾	4. 発行年 2022年
2. 出版社 神戸STS叢書	5. 総ページ数 67
3. 書名 シャムユーは「狩るモノ」と「狩られるモノ」の関係をどう考えるのか？	

1. 著者名 吉澤 誠一郎、石川 博樹、太田 淳、太田 信宏、小笠原 弘幸、宮宅 潔、四日市 康博	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 378
3. 書名 論点・東洋史学 - アジア・アフリカへの問い158	

1. 著者名 太田 淳	4. 発行年 2021年
2. 出版社 太田 淳	5. 総ページ数 378
3. 書名 「「華人の世紀」再考:華人だけが主役だったのか」吉澤誠一郎(監修)、石川博樹・太田淳・太田信宏・小笠原弘幸・宮宅潔・四日市康博(編著)『論点・東洋史学 - アジア・アフリカへの問い158』	

1. 著者名 太田 淳	4. 発行年 2021年
2. 出版社 太田 淳	5. 総ページ数 378
3. 書名 「植民地期東南アジアの社会変容;植民地支配は何をかえたのか」吉澤誠一郎(監修)、石川博樹・太田淳・太田信宏・小笠原弘幸・宮宅潔・四日市康博(編著)『論点・東洋史学 - アジア・アフリカへの問い 158』	

1. 著者名 太田淳	4. 発行年 2021年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 746
3. 書名 「港市」社会経済史学会編『社会経済史学事典』	

1. 著者名 荒川 正晴、大黒 俊二、小川 幸司、木畑 洋一、富谷 至、中野 聡、永原 陽子、林 佳世子、弘末 雅士、安村 直己	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 324
3. 書名 「グローバル貿易と東南アジア海域世界の「海賊」」弘末雅士・吉澤誠一郎編『東アジアと東南アジアの近世 15~18世紀』	

1. 著者名 井上雅俊、塚原東吾	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 410
3. 書名 「ウラニウム：現代史における原子力性」、『ものがつなく世界史』(ミネルヴァ世界史叢書5)	

1. 著者名 Togo Tsukahara	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 312
3. 書名 "Global Climate Change and Uncertainty: An Examination from the History of Science," in Risks and Regulation of New Technologies, edited by Tsuyoshi Matsuda, Jonathan Wolff, Takashi Yanagawa	

1. 著者名 塚原東吾	4. 発行年 2020年
2. 出版社 新教出版社	5. 総ページ数 193
3. 書名 「オリンピックとカジノ万博は現代のパベルの塔か? : 科学技術とプロテスタンティズムの倫理」新教出版社編集部編 ; 有住航 [ほか] 執筆 『現代のパベルの塔 : 反オリンピック・反万博』	

1. 著者名 塚原東吾	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 199
3. 書名 「東アジアと欧州のSTS」藤垣裕子責任編集 『科学技術社会論とは何か』	

1. 著者名 太田淳 (著) 信田敏宏ほか (編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 832
3. 書名 「「商業の時代」の東南アジア」 『東南アジア文化事典』	

1. 著者名 太田淳(著) 信田敏宏ほか(編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 832
3. 書名 「植民化の波」『東南アジア文化事典』	

1. 著者名 太田淳(著) 信田敏宏ほか(編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 832
3. 書名 「東南アジアを取り巻く世界」『東南アジア文化事典』	

1. 著者名 塚原東吾 [ほか] 編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 神戸STS研究会	5. 総ページ数 144
3. 書名 アジアの気候再現 : 航海日誌・モンスーン・台風をめぐる人文学と気象学のトランスサイエンス : 連続国際ワークショップ資料集	

1. 著者名 塚原東吾、藤原辰史(著)、アーロン・S.モア(著)、塚原東吾(監訳)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 367
3. 書名 『「大東亜」を建設する : 帝国日本の技術とイデオロギー』	

1. 著者名 塚原東吾 [ほか] 編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 神戸STS研究会	5. 総ページ数 115
3. 書名 歴史の中の気候、気候の中の歴史：国際シンポジウム資料集	

1. 著者名 長田紀之（著）信田敏宏ほか（編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 832
3. 書名 「都市の世界」 『東南アジア文化事典』	

1. 著者名 長田紀之（著）信田敏宏ほか（編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 832
3. 書名 「デルタの世界」 『東南アジア文化事典』	

1. 著者名 太田 淳	4. 発行年 2024年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 336
3. 書名 「海へ下るコーヒーと山に登るココヤシ - 19世紀ミナハサにおける商品作物栽培と人口増 - 」 脇村孝平編著 『近現代熱帯アジアの経済発展 - 人口・環境・資源 - 』	

1. 著者名 太田淳	4. 発行年 2023年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 288
3. 書名 「グローバル化」前川一郎編『歴史学入門 - だれにでもひらかれた14講』	

1. 著者名 古田和子・太田淳編	4. 発行年 2024年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 352
3. 書名 『アジア経済史(上)』	

1. 著者名 長田紀之	4. 発行年 2024年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 336
3. 書名 「歴史からみる東南アジアの国家とリスケーリング」玉野 和志、船津 鶴代、齊藤 麻人 編著『東南アジアにおける国家のリスケーリング : 都市研究と地域研究との対話』	

1. 著者名 デイン・ケネディ(著) / 長田紀之(訳)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 178
3. 書名 『脱植民地化 : 帝国・暴力・国民国家の世界史』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	赤坂 郁美 (Ikumi Akasaka) (40574140)	専修大学・文学部・教授 (32634)	
研究分担者	財城 真寿美 (Zaiki Masumi) (50534054)	成蹊大学・経済学部・教授 (32629)	
研究分担者	長田 紀之 (Osada Noriyuki) (70717925)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・地域研究センター動向分析研究グループ・研究員 (82512)	
研究分担者	塚原 東吾 (Tsukahara Togo) (80266353)	神戸大学・国際文化学研究所・教授 (14501)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	笹本 浩子 (Sasamoto Hiroko)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 Netherlands-Japan Historical Climatology Workshop	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 歴史の中の気候、気候の中の歴史：国際シンポジウム	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 International Workshop on Climate and Urban/Rural Development in Colonial Southeast Asia.	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 Workshop "Towards a New Phase of Historical Climatology: Dutch Navy Logbooks and Climatological Information"	開催年 2023年～2023年

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------